

Satoさんをはじめ、若くしてヌース知っている方々はもう、それだけで大したもんだと思う。僕らより当然進化してこの変換期に生まれ来てるわけだし。言うことなんか何もないヨ。何か尋ねられたら、それについて出来るだけ丁寧に対応したいという、気持ちはあるけれどね。

いったい人様になんか言う以前に、そのお前をなんとかしろよ！声がきこえるわけです。はい。まったく！、

若い人たちもオジサンのヨタ話などそれこそウザイだけじゃないのかな？そのあたりが、正直よくわからない。DON't Trust Over Thirty！ デスカラこのように再び依頼が来て、まだ戸惑っています。コンナ話でイイワケ？いずれにせよ遊星はキママが命だから(笑)、何時測候所も閉めるかわからない。まっそのあたりは宜しく！

-まっ、そうおっしゃらずに、無理のない範囲で宜しいですから…。

-あらゆる時代、事象を常に観察、測候して来られたんですね。その観察眼にヌースはどのように映っているのですか？

ヌースセオリーっていうのはさ、培われてきた宇宙観が見事に、ことごとく音を立てて崩壊する認識論ですね。古き良き時代のSF宇宙観というのはバリバリ還元主義。自分が昔天文少年だった頃、昆虫少年とかの時代もありましたけれども、そういうのが好きだった訳です。毎日のように星みたりして。還元主義宇宙もそれなりに楽しかったわけです。、明日への悩みなんかあるハズもなく、TVじゃ『ウルトラQ』で毎週ハルマゲドンだし、若き科学者ダグとトニーは『タイムトンネル』で永遠の過去と未来をさまよっぱなしだし、『タイムトラベラー』ケン・ソゴルはラベンダー抽出液でテレポテーションしたまんまだし…、解かなきゃいけない謎が多すぎて、ポッポッ僕らは忙しかったわけですよ！…っていったい何を自分は喋っているのか、そろそろワカラなくなってきました。

-イイ感じに壊れて来ましたね(笑)、このままツツ走りましょう！

またまたあ！ウマくなったね！最近。オーシ！ガンガン行こう！ゲシュタルト崩壊だあーっ！つまりどういうことなのかというと、還元主義的な宇宙観をベースとしている、SFとか全部そうなんですけど、そういう宇宙観における宇宙のロマンとか、かなり好きだったんですね。ヌースセオリーを知らない人にとってまだまだ今でもそれは強いと思うんですが。遙かなる宇宙とか、広大な宇宙という言葉がでるわけなんですけど、そういった文脈っていうのは全部還元主義的な世界観の中でしか生きられない。それでもそういう宇宙観のせめてロマンだけでも大事にしたいなと。とても好きだったし。楽しかった。、感謝一杯！ありがとう！と。おかげで、毎日がセンス・オブ・ワンダー。幸福でしたと。あっ、そうなんだ。なんかわかった。ユリイカ！

-ど、どうされたんですか？何がわかったんですか？

つ、つまりね、ヌースセオリーを知ってはや10年。自分も中年のオジサンの仲間入りしたこの頃、曰く言いがたいあるモヤモヤとした気配がズーとあったわけです。それが何で、どう手をほどこしてよいやら途方に暮れていたのですヨ。実は。それはこういうことだったのだなと。

つまり、ヌースセオリーをある程度知った大人の自分と、還元主義宇宙観でズーと遊んでいる子供の自分が、同時に僕のなか居るわけなんだと。で、居心地がわるいのは、互いの仲が今一つだったからだ。イメージでスキャンすると、子供の自分の方がどうやら少しプイとしている。そいつは「あんなに、こっちで遊んでたくせに、なんだい最近は！」そんな感じ。大人の方の自分は「ったく、アホらしくてつきあってらんねえよー」という感じ。少し面倒くさがっている。その両方をみているワタシの意識がやっぱりあって、それは、「うーん、なんとか統合出来ないものかと…」思っている。

これがさっき話してわかったよ。子供である自分の方の全ての経験、共にした次空間に対し、大人の自分は感謝の気持ちがまるでない。全く忘れてる。あんなお世話になってたのにね。ないまま、もう古いものとして切り捨てようとしていた。ここに無理があるんだ。そうだ。そうなんだ。アイツの御蔭で今の自分があるのだと。子供の自分に感謝！これが必要だったんだ。手放すにはそれに相応しい感謝の気持ちが必要なんだよ。たぶんきつと！直感だけ。統合のキーワードは、これじゃないの